

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19520049
研究課題名（和文）『中観明句論註釈』の文献学的研究によるインド・チベット中観仏教思想史の再構築
研究課題名（英文）Reconstruction of the history of Madhyamaka thought in India and Tibet based on the philological study of the *dBu ma tshig gsal gyi tika*
研究代表者
吉水 千鶴子 (YOSHIMIZU CHIZUKO)
筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・准教授
研究者番号：10361297

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・ 印度哲学・ 仏教学

キーワード：仏教学全般 中観思想 大乘仏教 仏教論理学 チベット仏教

1. 研究計画の概要

(1) 12世紀チベット人学匠シャン・タンサクパ作『中観明句論註釈』第1章の写本の解読と校訂テキストの作成

(2) (1)に基づく研究

①『中観明句論』の著者でインド中観帰謬派チャンドラキールティによるバーヴィヴェーカの自立論証批判の再解釈

②自立論証派と帰謬論証派の区分の根拠再考

③中観思想と論理学の関わりの再検討

④12世紀チベットの思想状況の解明

2. 研究の進捗状況

(1) 現在までに、『中観明句論註釈』第1章の写本の解読作業はほぼ終了した。その前半部分である1～24フォリオのテキストを校正し、チベット語テキストとして出版する準備を開始した。

(2) この写本の解読と『中観明句論』の再読により、下記の研究成果が上がっている。

①チャンドラキールティによるバーヴィヴェーカ自立論証批判を理解する上での争点となっていた「自立」の意味について、シャン・タンサクパの解釈を明らかにした。研究者の間で意見が分かれているテキストの読み方については、「自分の」とは「論者自身の」という意味であり、最初に主張を行う対論者のサーンクヤ学派を指し、中観派を指すのではないと理解すべきであることを論じた。また、シャンが理解する「主張命題」とは、仏教論理学派が定義する「主張命題」であり、中観派はそれを用いるべきではないと

シャンが考えることを明らかにした。

②自立論証派と帰謬論証派の区分は12世紀にはまだ確定されていなかったことを明らかにした。その区分が始まる時の最初の根拠は、論証形式の違いにあることも確認できた。

③帰謬論証派は論理学受容に消極的であると従来評価されてきたが、彼らはむしろ同時代の論理学的用法を認め、その手続きを踏んで自説の間接的証明を行っていたと考えられる。彼らが退けたのは、自らの中観学説の存在論と抵触する部分のみである。このような新しい知見をチャンドラキールティの『中観明句論』について提示し、再考すべき問題点を指摘した。

3. 現在の達成度

②おおむね順調に進展している。

写本の解読作業はおおよそ予定通り完了し、校訂テキストの作成も3分の2は終了している。それにもとづく研究も、課題としてあげた問題解明（1. 研究計画の概要（2）①～③）については達成した。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 写本の校訂テキスト作成を継続し、期間内の完成を目指す。

(2) 12世紀チベットの思想状況について、カダム派の歴史と思想を解明するというやり方で明らかにする。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

① Chizuko Yoshimizu, “The Logic of the *Samdhinirmocanasūtra*: Establishing Right Reasoning Based on Similarity (*sārūpya*) and Dissimilarity (*vairūpya*),” *Logic in Earliest Classical India, Papers of the 12th World Sanskrit Conference held in Helsinki, Finland, 13-18 July 2003*, 10-2, 139-166, 2010 査読有

② 佐久間秀範 「インド瑜伽行派諸論師の系譜に関する若干の覚え書きー 弥勒・無着・世親ー」『哲学・思想論集』35 号、164-198、2009 査読無

③ Chizuko Yoshimizu, “Zhang Thang sag pa’ s reevaluation of Buddhapālita’ s statement of con-sequence” 『哲学・思想論集』34 号、81-99、2008 査読無
<http://hdl.handle.net/2241/102658>

④ 佐久間秀範 「法相宗所伝の諸論師系譜の再考」『仏教と文化』171-194、2008 査読有

⑤ Hidenori Sakuma, “On doctrinal similarities between Sthiramati and Xuanzang,” *Journal of International Association of Buddhist Studies* 29-2, 357-382, 2008 査読有

⑥ Chizuko Yoshimizu, “Causal efficacy and spatiotemporal restriction: An analytical study of the Sautrāntika philosophy.” *Pramāṇakīrti. Papers dedicated to Ernst Steinkellner on the occasion of his 70th birthday*, Part 2, 1049-1078, Wien 2007 査読有
<http://hdl.handle.net/2241/103161>

⑦ 佐久間秀範 「『サーンキヤ・カーリカー』を根拠とする意識ー成所作智、五識ー妙観察智の正当性」
『哲学・思想論集』33 号、23-30、2007、査読無

⑧ 小野基 「Pramaanavaartikaalamkaara, Pararthaanumaana 章の研究ー校訂テキストと和訳・訳注ー (6)」『哲学・思想論集』33 号、49-78、2007、査読無

[学会発表] (計 3 件)

① Chizuko Yoshimizu, “The logical value of the thesis (*prati jñā*) in Candrakīrti’ s Madhyamaka thought,” The 14th World

Sanskrit Conference, 2009 年 9 月 1 日、京都大学

② Chizuko Yoshimizu, “Zhang Thang sag pa on theses in Madhyamaka,” The 15th Conference of the International Association of Buddhist Studies, 2008 年 6 月 24 日, Emory University, Atlanta, USA

③ Hidenori Sakuma, “On doctrinal similarities between Sthiramati and Xuanzang,” The 15th Conference of the International Association of Buddhist Studies, 2008 年 6 月 28 日, Emory University, Atlanta, USA

[図書] (計 1 件)

① 川崎信定・吉水千鶴子 『西藏仏教宗義研究』第八卷, トウカン『一切宗義』序章「インドの思想と仏教」、財団法人東洋文庫 2007 年 3 月、ii+202 頁